

**御殿場市指定研究「西中学校区
園・学校一貫教育研究」並び
に国立教育政策研究所「魅力
ある学校づくり調査研究事
業」〜新規不登校児童生徒の
抑制を目指して〜**

指導主事 石田 善正

不登校の児童生徒の約半数は、今まで登校できていたのに、急に登校できなくなる新たな不登校の児童生徒（以下新規不登校者）です。不登校は特定の児童生徒にのみ起こるものではなく、どの児童生徒にも起こり得ます。したがって、不登校状態にある児童生徒への丁寧な自立支援と合わせ、新規不登校者を抑制するための未然防止の取組が重要となります。

御殿場市指定研究「西中学校区園・学校一貫教育研究」並びに国立教育政策研究所「魅力ある学校づくり調査研究事業」に、西中学校区三校四園（西中学校、玉穂小学校、印野小学校、玉穂幼稚園、玉穂第一保育園、玉穂第二保育園、印野こども園）が、平成二十八年度から今年度までの三年間取り組んできました。

「さまざまなアンケート等

を行っているが、どうすればより活用できるだろう」

「関係機関や専門家との連携以外の不登校対策はないのだろうか」「同じ取組をして



も、学年間で差がある現状を改善するために何が必要だろう」この研究は、これらの疑問を解くことができます。西中学校区は、幼保小中の連携の充実と授業改善を軸に、三校四園が一体となって取り組んできました。

研究の中心となる「児童生徒意識調査とPDCAサイクル」の具体的な進め方は、以下のとおりです。

①全校児童生徒を対象に「意識調査」を学期開始前に実施し、児童生徒の実態を捉えます。西中学校区は、プレ意識調査の結果、「授業に主体的に取り組んでいる」の項目が他の項目と比較して低かったため、この項目の向上を目指すこととしました。

②意識調査をもとに、学期末までの目標を設定し、「授業に主体的に取り組んでいる」

という質問に「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒が、「当てはまる」と回答したくなるような取組を学年ごとに検討し、計画を作成します。一般的には、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせて肯定的な数値としますが、本研究はあえて「当てはまる」の数値だけに注目するところが特徴です。

③計画に基づいた取組を組織的に実行します。

④学期末に再び意識調査を実施し、「当てはまる」と回答した児童生徒の増減をもとに、学年ごとに手立ての有効性や浸透度を分析します。

⑤分析に基づき、継続する点と改善する点を学年ごとに検討し、新たな計画を作成します。

このPDCAサイクルを、一学期、二学期、三学期の年間三回繰り返していきます。児童生徒対象の意識調査を基に点検・見直しを繰り返すことで必ず「転機」が訪れ、取組が多くの子に浸透していくようになります。しかし、そのタイミングは、学校や学年で異なります。児童生

徒の実態を踏まえた工夫を後回しにすることなく、これまで各学校・各学年で大切にしてきた取組を、計画的・継続的に点検・見直しするだけで大きな効果があります。また、意識調査のデータはあくまでも共通理解を図るためのツールであり、その結果に一喜一憂する必要はありません。データをしながら学年部教員で点検・見直しをすることがより多くの児童生徒に届く取組につながります。

西中学校区では、三年間で合計八回の意識調査を行い、授業改善に努めてきました。その結果、意識調査の「授業に主体的に取り組んでいる」の数値は、各校とも増減を繰り返しつつ増加傾向となり、逆に新規不登校者数は年々減少傾向となることで、全体の不登校も減少しました。本研究の価値と知見を共有し、今後市内全体で不登校対策に取り組んでいきたいと考えています。



御殿場市連続授業研修〜大館市交流研修会〜

指導主事 丹澤 謹志

平成三十一年一月十八日に玉穂小学校において、御殿場市連続授業研修会を実施しました。本研修会は、『秋田県大館市の「授業研究」に学び、研修連携して御殿場市の授業力を向上させる。一人たりとも置き去りにしない教育・授業』を旨とす。ことをねらいとし、勝又教育長の尽力により、実現したものです。

大館市の授業マイスターである米澤 貴子教師を講師として招聘し、学級担任とのTTIで四年生算数の授業を公開しました。

子供同士が「学び合っている」と実感しながら授業に向かっています。子供の思考を整理した板書、深い学びにつながるシンカタイム、どの子も授業に遅れないようにするための声かけ等、明日でも実践してみたいと思います。

これは、研修参加者の感想の一部です。本研修会によって多くの先生方が大きな刺激を受けたことと思います。今後の授業改善に期待します。